

はねっと 9

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



一歩踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

誰かの声を伝えるたびに、 広がる世界

市民ライター ひらつか ちえ 平塚 千絵 さん(40)

手づくりの名刺の肩書には「市民ライター」の文字。平塚千絵さんは、地域の課題解決や活性化に取り組む人々取材し記事を書いています。大切にしているのは、仙台に暮らす一市民としての気づきや視点です。記事は、主にサポセンのブログやニュースレター「ぱれっと」に掲載されています。「取材した人たちが喜んでくれたり、読者がアクションを起こしてくれたりと、書いて良かった!と思う」と声を弾ませます。2018年、サポセンの「市民ライター講座」受講をきっかけに、市民ライターと名乗り活動を始めました。講座を受講したのは、「自分の考えや思いが伝わる文章が書きたい」と思ったから。もともと書くことは好きでしたが、転職先での広報業務で、自分が書いた文章を上司や同僚から何度も直された経験が決め手になりました。「ショックだった。かっこつけてうまく書こうとばかりしていたんだと思う」と当時を振り返ります。意識が変わったのは、講座で初めて体験した取材でした。取材先は、障がい児とその親のために創作の場づくりをする市民活動団体。芸術は専門外でしたが、代表者の熱意に触れ、「応援したい」と展覧会にも出向き原稿を書きました。「書きたいという欲求が、伝えたいという使命感に変わった」と変化を語ります。苦い思い出となっていた第三者からの添削も「取材先のためにも誤った発信はしたくない」と積極的に受けるようになりました。

これまで、震災・農業復興に励む若者たち、若年性乳がん体験者をサポートする患者支援団体、東北の手仕事を盛り上げる職人など、取材を通じて様々な人たちとの出会いがありました。「取材のたびに、知らなかったことや取材相手の内なる思いに触れ、いつしか自分の世界が広がっていた」と平塚さん。今日も誰かの声を伝えようとペンを握ります。



市民ライター講座とは

プロの記者から取材と執筆のいろはを学ぶ連続講座です。サポセンと河北新報社が共催し、2014年から2018年までに全7回開催してきました。受講生は、実際に市内で活動する市民活動団体を取材。何度も書き直した記事を河北新報社夕刊やサポセンブログで発表しました。平塚さん含め、受講生がこれまで手がけた記事は「ぱれっと」バックナンバーやサポセンのブログでご覧いただけます。



▲サポセンブログ@
仙台「市民ライター
課外活動」



▲「ぱれっと」
バックナンバー



市民活動団体を紹介「市民活動突撃レポート！」

聞こえているのに聞き取れない、悩み持つ人がつながる場所に 東北APD/LiD当事者会

APD/LiD(聴覚情報処理障害/聞き取り困難)とは、音を集集・感知する機能は正常にも関わらず、言葉の内容の理解が難しい障害です。例えば、言葉の一部が抜け落ちて聞こえたり、雑音が多い環境では聞き取るべき音を絞って聞くことが難しくなったりします。先天的・後天的な場合があり、原因は脳機能の問題ではないかと考えられていますが、まだまだ明らかになっていないことが多いのが現状です。診断できる医師も少なく、障害の認知度が低いため、当事者自身も気づかなかつたり、周囲に誤解されたりすることがあります。

東北APD/LiD当事者会(以下、当事者会)は、聞こえづらさを感じる人のための交流会を開催しています。交流会では、参加者同士で悩みを語り合ったり、日常生活を送る上での工夫について情報交換をしたりしています。例えば、「店や街中では特に聞き取りづらい」という悩みには、ノイズキャンセリングイヤ

ホンで雑音をカットするなどの方法を考えます。「職場で働きやすくするには?」という問いかけには、職場でのカミングアウト体験談の共有や、上司からの指示をリストに書いてもらうといった方法を皆で話し合うこともあります。

当事者会の立ち上げは、2019年。当事者である発起人が、計4回の交流会を実施しましたが、その後は新型コロナウイルスの影響で活動を休止。活動を引き継いだ現代表が、2022年に交流会を再開させました。交流会には、これまでに約30人が参加。中には症状に悩み、インターネットで情報を探し回るうちに、Twitterで交流会の存在を知ったという当事者もいます。今後の運営を引き継ぐ副代表は、「聞こえ方で困っている人とつながりを持ちたい。解決策を提示するというよりは、少しでも生活しやすくするための選択肢を知ってもらえたら」と話します。

東北APD/LiD当事者会

交流会は、2・3か月おき不定期開催で、聞きとりづらさを感じている人なら誰でも参加可能。ハンドルネーム可で安心して話せます。開催情報はTwitterまで。
@tohoku_APD2



▲Twitter

知っていますか?「APDマーク」

このマークを見かけたら、静かな場所で話したり、文字で伝えたりしてください。



サポセン蔵書から活動に役立つ書籍をご紹介します

フードバンクという挑戦 貧困と飽食のあいだで

フードバンクとは、安全に食べられるのに廃棄されていた食品を生活困窮者に届ける活動です。本書では、貧困と食品ロスの社会課題に立ち向かうべく日本初のフードバンクを立ち上げたチャールズ・マクジルトン氏の奮闘が描かれています。今でこそ、身近な課題として取り組まれています、当時は限られた人たちや企業の問題と捉えられていました。課題を社会に訴え続け多くの人を巻き込んだその歩みから、市民の手で社会をより良くするとは何なのかを知ることができます。

著者 大原悦子
発行 岩波書店



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 9月14日(水)、28日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者: 特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2022年9月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]
@SCSC4CA

[YouTube]
サポセンちゃんねる

